

男山地域の持続可能なまちづくりに向けた再調査概要報告書

概要

平成 25 年 10 月に京都府知事を立会人とし、関西大学、UR 都市機構、八幡市において、「住みたい、住みつづけたい男山」を目指し、「男山地域まちづくり連携協定」を締結しました。その後、平成 26 年 3 月には地域住民と市等が一体となって、男山地域の再生に向けた主体的・自立的で様々な取組・活動が展開されていくことを目的に「男山地域再生基本計画」を策定しました。

協定締結及び基本計画策定から 10 年が経過し、これまでにまちづくり連携協定に関係する 4 者による様々な取組や住民主体の活動が実施されてきました。本資料ではそれらを振り返り、客観的な統計情報やアンケート、住民・関係者ヒアリングの結果をあわせて考察することで、今後の展望へ繋げるものです。

※本資料では連携協定関係主体が実施するものを“取組”、住民等が主体となって実施しているものを“活動”と呼びます。

男山地域まちづくり連携協定

協定では下記の項目が連携協力事項として挙げられています。

連携・協力事項

1. 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立
2. 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
3. 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
4. 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

男山地域再生基本計画

計画においては主に下記の内容が定められています。

基本理念：元気の創造

行動方針：元気の種を探し出し、蒔き、育てる

行動規範：①自分がやりたい、自分の出来る ＝ 自律

②ストックの活用、地域の発見 ＝ 地域力

③もっともっと、おもしろく ＝ 持続可能

④つながる、つなげる、ネットワーク ＝ 協働・共助

将来目標：地域とともに元気な暮らしができる、住みたい、住みつづけたい男山

7 つの基本目標

1. 潤いと誇りを持って暮らせる地域にする
2. 生きがいのある暮らしを自らつくる地域にする
3. 快適に暮らせる住まいがある地域にする
4. 楽しみや学びがあり、心身健やかに暮らせる地域にする
5. 元気に暮らせる豊かな生活基盤がある地域にする
6. 元気に働けて、活気のある暮らしができる地域にする
7. コミュニティを育み、互いを気遣う暮らしがある地域にする

※本資料内の下記については記載の町名を含む地域を指します（地図上における範囲は 4 ページを参照）。

男山団地：男山雄徳、男山笹谷、男山八望、男山石城、男山弓岡、男山竹園、男山香呂

男山地域：男山指月、男山美桜、男山吉井、男山松里、男山長沢、男山泉、男山金振及び上記男山団地に含まれる町名

1. これまでに実施した取組

子育てしやすい環境づくり

おひさまテラス



地元の有志グループと協力し、親子が一緒に遊べるスペースを備えた地域子育て支援施設を UR 賃貸の集会所内に開設しました。

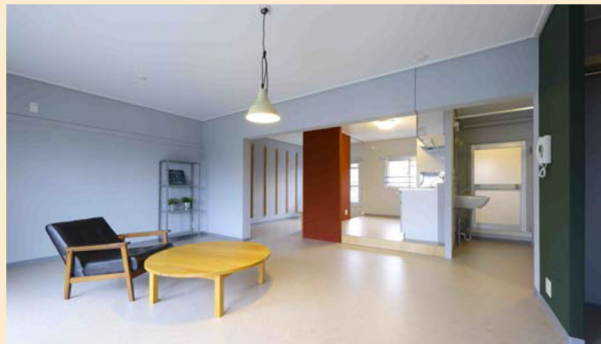
■令和 4 年度利用実績
利用児童数：891 人
利用親子組数：762 組

地域住民や関係者の声

ママ友や子育ての悩みを相談する相手が見つかった。

子どもを一時的に預けられ、その間に用事や食事をする事ができるので助かっている。

住戸リノベーション



子育て層や若年世帯へ訴求し得る住宅として、関西大学の学生がお住まいの方から集めたニーズを元に考え、UR 賃貸に反映させたリノベーション住戸を平成 26 年度から供給しています。

■実現戸数
全 26 パターン
全 48 戸

若年層世帯を対象とする家賃負担の軽減／そのママ割、子育て割、近居割ワイド、U35 割



UR 賃貸において子育て層世帯や若年層世帯への家賃負担軽減制度を導入しています。

よりみちマルシェ

公園を利用し、多世代が交流、楽しめるイベントを開催しました。



高齢者が住み続けられる環境づくり

地域包括ケア複合施設 YMB T



高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指し、地域包括ケアシステム構築の一環として UR 都市機構の協力を得て整備されました。多様な高齢者のニーズに対応できる機能（特別養護老人ホーム、訪問介護等）、元気高齢者の参画・地域へのサービス提供の場（1 階多目的ホールにて健康教室、オレンジカフェ等を開催）、地域包括ケア推進拠点が設けられています。

地域住民や関係者の声

YMBT が近くにできて安心した。

男山地域から入居した人がたくさんいる。

絆ネット事業



地域の各主体による取組を横断的に調整・推進し、地域全体での新たな見守り活動の展開を目指し、地区座談会の推進や地域懇談会を開催しました。地域自治会を中心に見守り活動や困りごと相談が実施されています。

地域住民や関係者の声

事業の手助けにより再検討した活動で交流を深めている。

必要としている高齢者の見守りを行なえている。

中層エレベーターの設置



スマートウェルネスシティの取組



従来の“人に対する健康づくり”に、自然と歩きたくなる都市環境などの“まちの健康づくり”の視点を加えた「健康まちづくり＝スマートウェルネスシティ」の推進に向け、科学的根拠に基づく施策の実施を進めています。

外国人が住みやすい環境づくり

生活オリエンテーション・地域住民との交流会



地域住民や関係者の声

当初はトラブルもあったが、近年は減少している。

イベント等で地域住民と外国人住民が交流を持つきっかけをつくることが重要。

日本人住民と外国人住民が相互に理解を深め、住みよいまちになることを目指し、市内の外国人従業員が多数所属する企業と協力し、外国人住民に対する生活ルール（ゴミ出し、交通等）の説明や防災情報の提供等のオリエンテーションを実施しました。終了後には、地域住民との交流会を開催しました。

くらしのそうだん事例集



外国人住民が生活する上でよくある相談事例と解決方法をまとめ、やさしい日本語での表記や各国の言語に翻訳した冊子を外国人受入企業や八幡警察署と協力して作成しました。

■掲載内容

- ・日本に住む外国人とのくらしのトラブル、相談事例
- ・外国人、日本人双方の視点
- ・日本で生活するにあたっての最低限のルール

■作成言語

- ・やさしい日本語、ベトナム語、ポルトガル語、英語

日本語指導ボランティア養成・スキルアップ講座



外国人住民の日本語学習を支援するボランティアの養成講座、指導方法に関するスキルアップ講座を実施しました。

地域住民や関係者の声

近年は日本語教室における教える側の人員数が安定している。

魅力ある住環境づくり

団地空間の魅力向上

エントランス改修等



集会所を中心とした プレイスメイキング



UR 賃貸 1 階のエントランス部分の改修や手摺・駐輪場等において、多様な色彩を取り入れた鉄部塗装を実施し、魅力的な団地空間づくりが行われました。また、集会所の改修が実施され、プレイスメイキング（居心地の良い居場所づくり）が進められています。

地域住民や関係者の声

エントランスや扉の塗装改修により、自分の家が自慢できるようになった。

階段室に設置されたベンチは近所の人や子どものたまり場となっている。

セルフリノベーションの取組

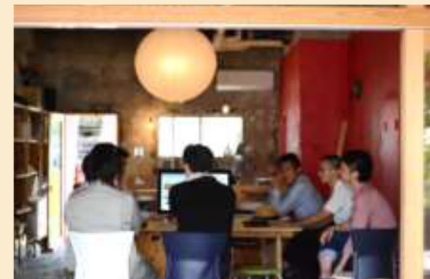
ココロミタウン



だんだんラボ



住まいの相談会



UR 賃貸では、居住者自らが自身の賃貸する住宅を自分好みの住宅に改修し、愛着を持って住み続けることができるように、C 地区をセルフリノベーション特区「ココロミタウン」とし、原状回復義務を一部免除した「DIY 住宅」等が供給されました。

住民自身によるセルフリノベーションをサポートするために工具の貸出や DIY スペースとして使用することができる「だんだんラボ」の整備や地元建築士会と協力した住まいの相談会、モデルルームの公開等を実施しました。

モデルルームの公開



住民が主体となる環境づくり

だんだんテラス



「住民が気軽に集まれる場所を」という声を受け、「だんだんテラス」を開設しました。住民や地域コーディネーター、学生等により、朝市やラジオ体操等のきっかけ活動を行ないながら、地域のコミュニティ拠点として運営しています。



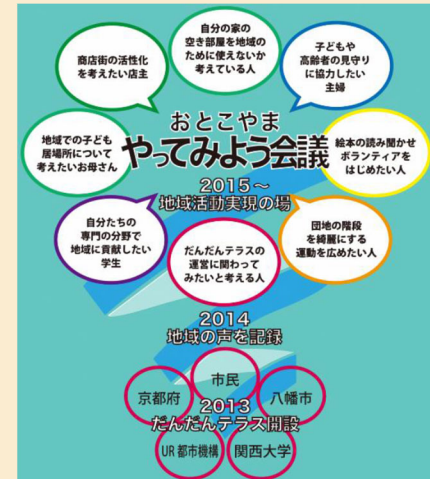
地域住民や関係者の声

近所づきあいを気にせず自由に利用できる場所ができた。

朝市やラジオ体操はふらっと寄って楽しむことができ、参加しやすい。

自治会とは別の存在として地域外から入居した人にとって生活を楽しむきっかけの場になっているのではないかな。

男山やってみよう会議



住みたい、住みつづけたい男山地域であるために、幅広い世代が集い、まちづくりや具体的な取組について議論を重ね、自分達で何ができるかを話し合う場として「男山やってみよう会議」を開催しました。

地域住民や関係者の声

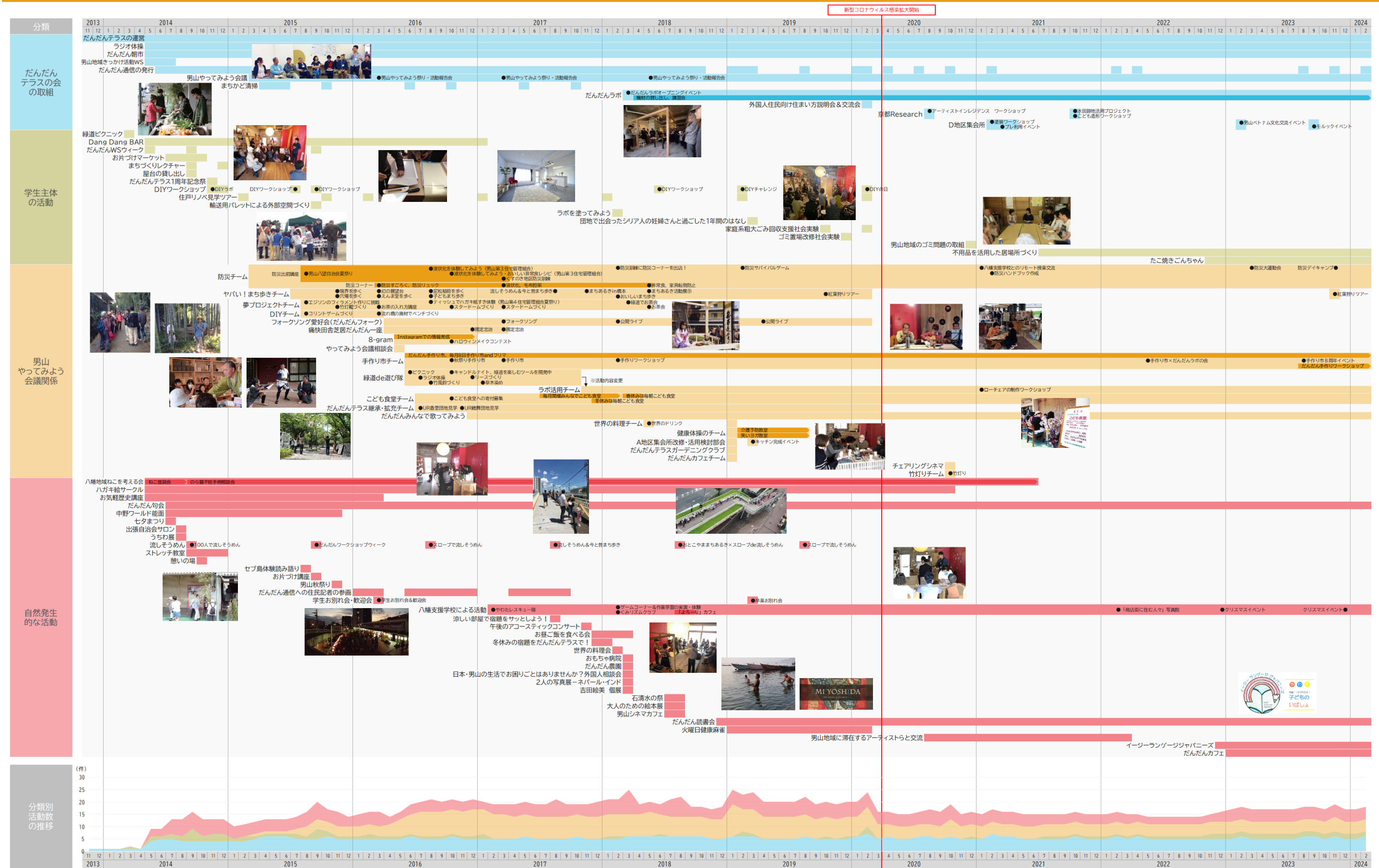
やりたいことを実現できる場になっている。

地域のことをざっくばらんに話す機会が定期的にあると良い。

なんでもよいので地域と関わりたい人は一定数いるため、そういった人が参加する場として良い機会である。

累計開催回数：91 回（R5.3.18 時点）
累計結成チーム数：19 チーム

2.男山地域における 10 年間の活動年表



※だんだん通信やヒアリング等を元に作成したものであり、実際には記載にない活動も多く存在しています。
※一定期間活動していないものも含まれますが、現在活動しているものについては、継続しているものとして表記しています。

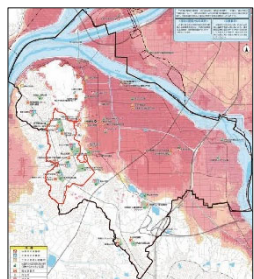
3.男山地域の立地特性及び社会動向

男山地域の立地環境

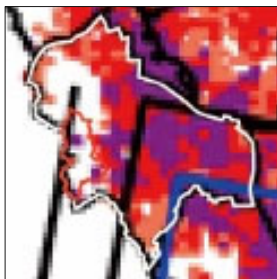
男山地域は、八幡市の中で比較的利便性が高く、災害リスクが低いエリアであり、八幡市の居住地として重要な存在です。
市の人口の約 3 割を占めているとともに、市外からの流入人口の受皿にもなっています。

利便性が高く、災害リスクが低い

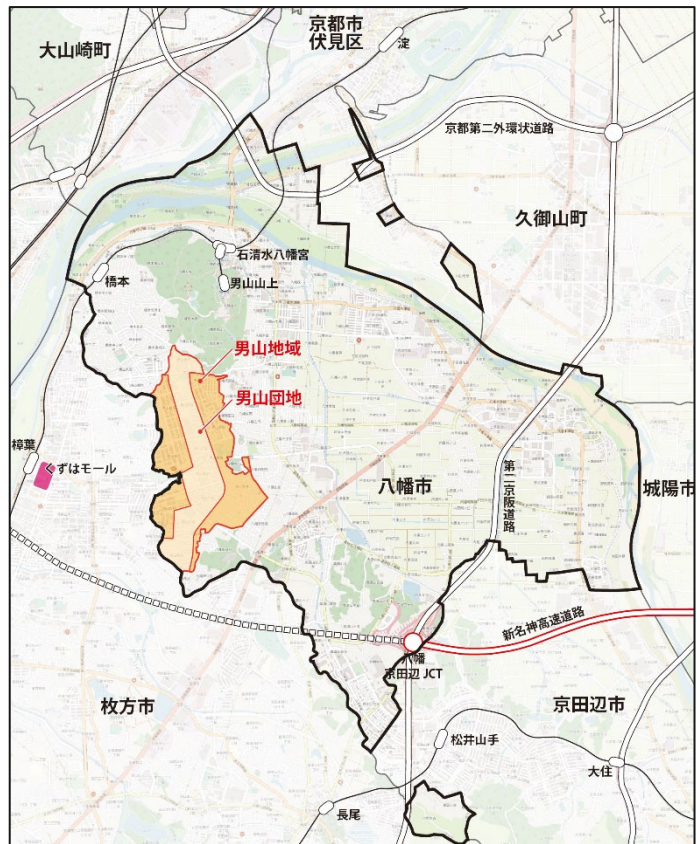
- 男山地域は、京阪電車樟葉駅からバス・自転車で最短約 10 分の好立地にあります。
- 近隣には商業施設等の生活利便施設や公共施設が充実しています。
- 自動車交通としては、新名神高速道路（城陽～八幡京田辺間）が平成 29 年度に供用開始されました。市民の移動手段だけでなく、今後予定される全線開通に向け、八幡市内への企業進出も期待されます。
- 八幡市は、近隣地域と同様、水害や地震災害など、一定のリスクを抱えていますが、男山地域は市内の中では比較的災害リスクが低くなっています。



木津川浸水想定区域
(八幡市 HP)



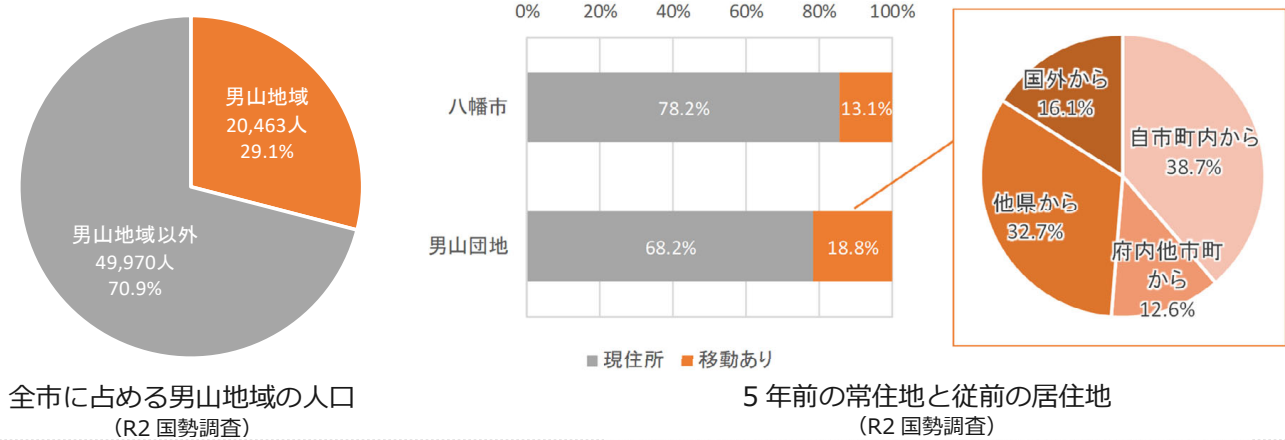
生駒断層帯での地震による
液状化危険度
(京都府 HP)



男山地域の周辺環境

住宅地として果たす役割

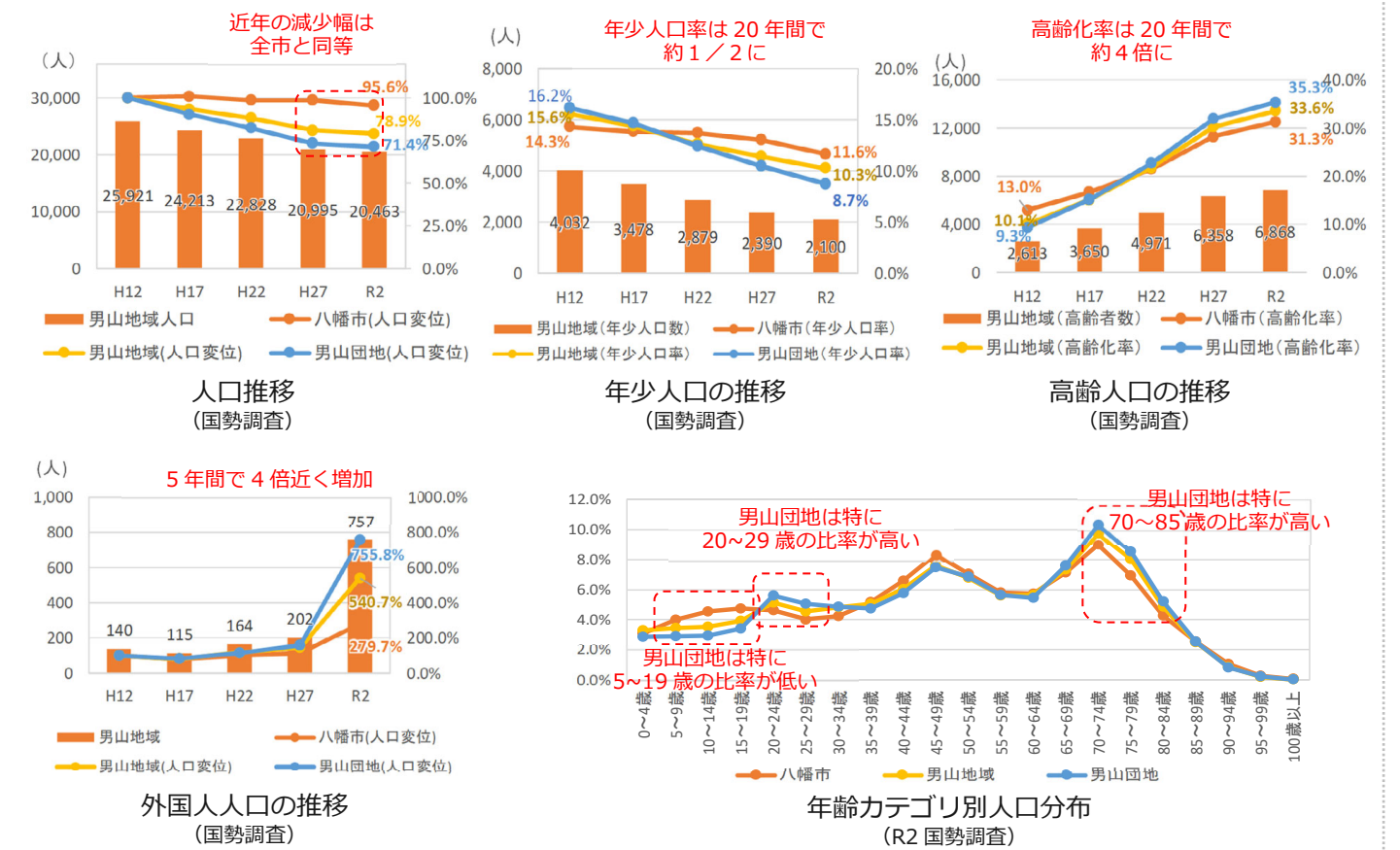
- 男山地域の人口は市の総人口の約 3 割を占めています。
- 住宅の多くが賃貸住宅で構成される男山団地では、市全体と比べて居住者に占める転入者の割合が高く、うち半数は他県や国外からの転入となっています。



人口・世帯の推移

長期的には人口減少が続いていますが、近年はその幅は小さくなっています。
一方で、年少人口の減少・高齢人口の増加・外国人人口の増加など、市全体よりも急激な変化が起こっており、高齢者の孤立防止、子育て世代の交流、多文化共生など、住民同士のコミュニティづくりが引き続き必要な状況です。

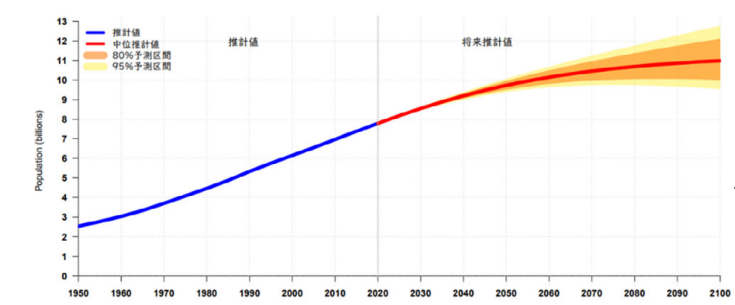
- 男山地域では、長期的に見ると人口減少が進んでいるものの、近年の減少傾向は全市と大きく変わりません。なお、地域内でも男山団地では他と比べて減少傾向が大きくなっています。
- 年少人口について、男山地域では市全体に比べて減少傾向が大きくなっています。(特に、男山団地では減少傾向が続いています)
- 高齢人口について、男山地域では市全体に比べて増加傾向が大きくなっています。(特に、男山団地では高齢化が進行しています)
- 外国人人口について、平成 27 年から令和 2 年にかけて大幅に増加(そのうち多くが男山団地に居住)しています。
- 年齢カテゴリ別の人口分布を見ると、全市と比べて、男山地域では 19 歳以下の世代が少なく、20～34 歳の世代・70 歳以上の世代が多くなっています。特に、男山団地ではその傾向が顕著になっています。今後、居住する世代の入れ替わりの発生が予想されます。



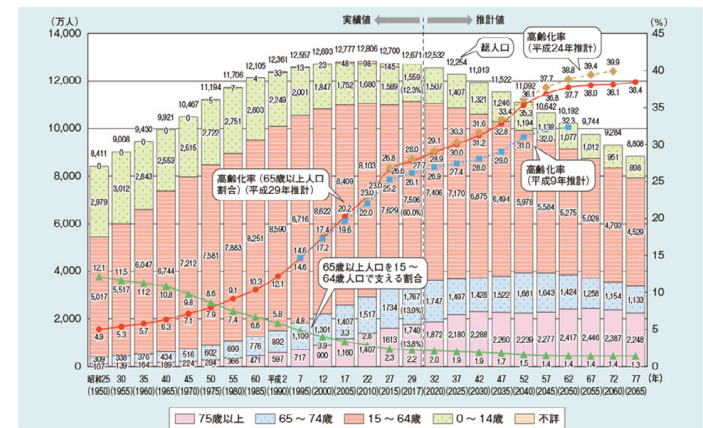
4. 今後日本で予測される社会の変化（一例）

人口動態の変化

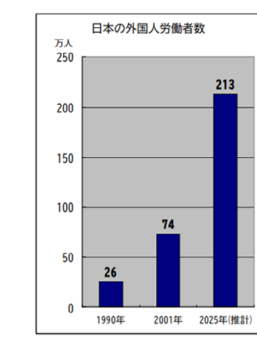
世界的には人口増が続く中、日本を含む先進国では少子高齢化による人口減少が進行しています。
外国人材については、企業の人手不足を背景に、技能実習・特定技能制度の開始なども影響して増加しています。今後も少子高齢化の進行により、役割が増すと考えられる一方で、諸外国でも高齢化が進行しており、今後人材競争が激化する可能性があります。



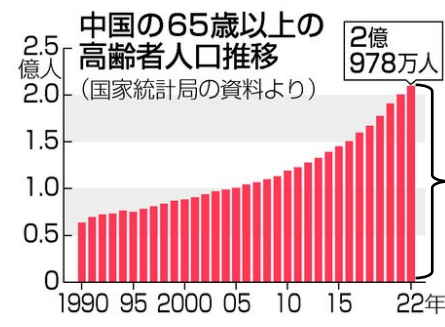
世界的な人口増
(ニッセイアセットマネジメントレポート)



日本の将来人口推計
(総務省)



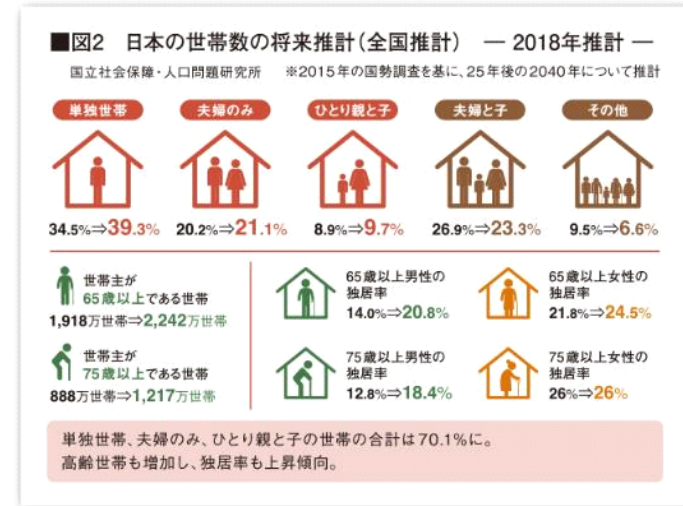
日本の外国人労働者数
(内閣府)



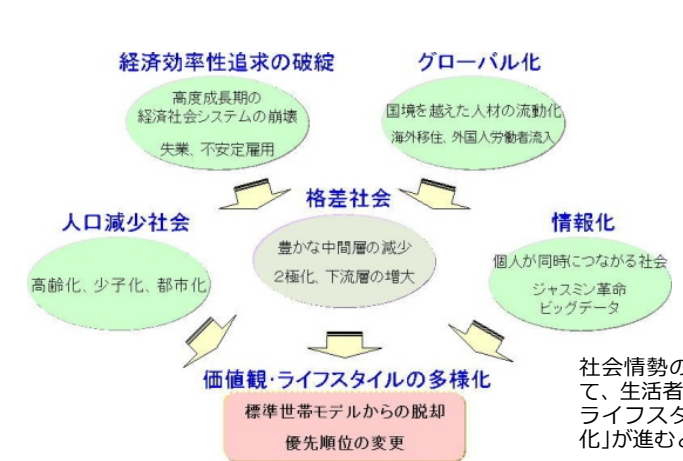
中国の65歳以上の高齢者人口推計
(時事通信)

ライフスタイルの変化

社会の変化により、人口だけでなく、世帯構成やライフスタイルの多様化も見られるようになっていきます。今後、人口減少や情報化などの影響も受け、より一層の多様化が進んでいくと考えられる中、ウェルビーイングを達成する暮らしのあり方を模索していく必要があります。



日本の世帯に関する推計
(生和コーポレーション)



ライフスタイルをとりまく社会潮流
(国立環境研究所)



新たなライフスタイルのイメージの一例

自然環境・社会資本の変化

気候変動などの自然環境や、情報技術や住宅ストックなどの社会資本にも変化が見られています。今後、社会情勢の変化がより大きくなることが予想される中、多角的な視点で課題解決に取り組むことが必要です。
全国的に、ニュータウンでは高齢化や住宅ストックの高経年化、空き家の増加などが課題として見られています。

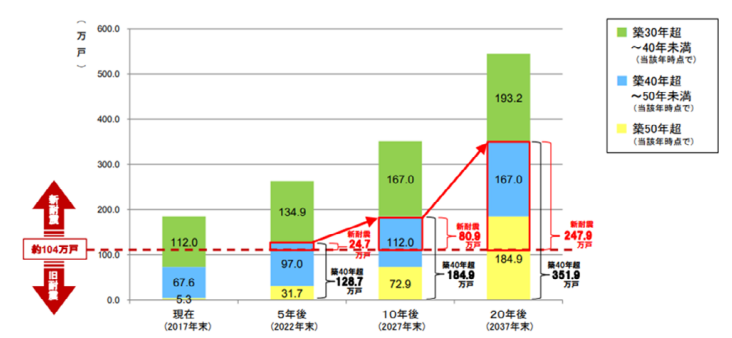


資料：国土交通省

気候変動 2000年以降の日本における大規模災害
(国土交通省 HP)



情報技術の発達
(国立研究開発法人科学技術振興機構資料内閣府国家戦略特区 HP)



高経年マンションストックの増加 (国土交通省)

国の推計によると、新耐震基準のマンションのうち、築40年超となるものが2037年末には約250万戸となる

5. 男山地域のまちづくりに関するアンケート調査まとめ

(1) 調査概要

1. 調査目的

連携協定締結及び基本計画策定後から10年後が経ち、これまでの取組を振り返るとともに、今後の検討に活かしていくため、現状の把握等を行うことを目的に、市民アンケート調査を実施しました。

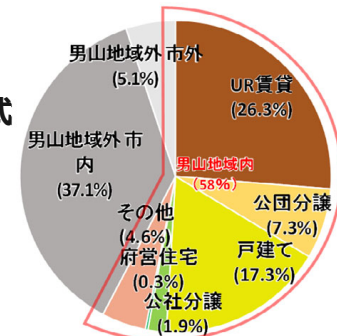
2. アンケート調査実施期間及び回収数

実施期間	令和5年7月29日(土)～8月21日(月)	
回収数	WEB形式	348票
	紙形式	23票
	合計数	371票

3. 回答者属性

a.回答者居住地の分布と住宅形式

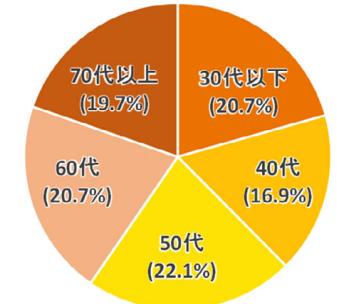
総回答の内、男山地域内回答者は、58%でした。また、地域内回答者数の内において、住宅形式別で見るとUR賃貸が最も多く26%と男山団地内居住の方が多くの割合を占める結果となりました。



▲グラフ1:住宅形式別回答者割合

b.回答者年代の分布

地域内回答者の年代は、50代が最大で22.1%、次いで60代が20.7%となっており、年代に偏りがない回答の結果を得ることが出来ました。



▲グラフ2:年齢別回答者割合

(2) 連携協定による地域での取組について

1. 取組の認知と大事だと思う取組

※グラフ3・4を参照

○「外国人が住みやすい環境づくり」を除く他の取組は、認知度及び大事だと思う割合は、共に半数以上を占めており、男山地域内居住者の取組に関する認知度は高くなっています。

○「外国人が住みやすい環境づくり」や「子育てしやすい環境づくり」は、大事だと思う割合に比べて認知度が低い結果になっています。

○「住民が主体となる環境づくり」は、認知度は高いが、認知度と比べて大事だと思う割合が低い結果となっています。

○「子育てしやすい環境づくり」は若年世帯の大事だと思う割合が高くなっています。

○「高齢者が住みやすい環境づくり」は高齢者の大事だと思う割合が高くなっています。

○「魅力ある住環境づくり」は、特に40代・50代において大事だと思う割合が高くなっています。

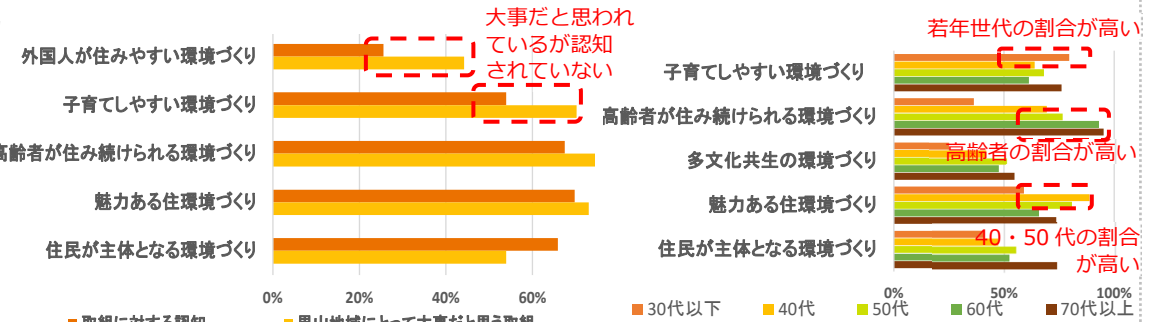
2. 地域に求められている場所

※グラフ5・6を参照

○情報発信の場やサロンのような場所が求められています。特に、地域活動への参加意向が高い程、情報発信の場やサロンのような場所を求めていることがわかります。

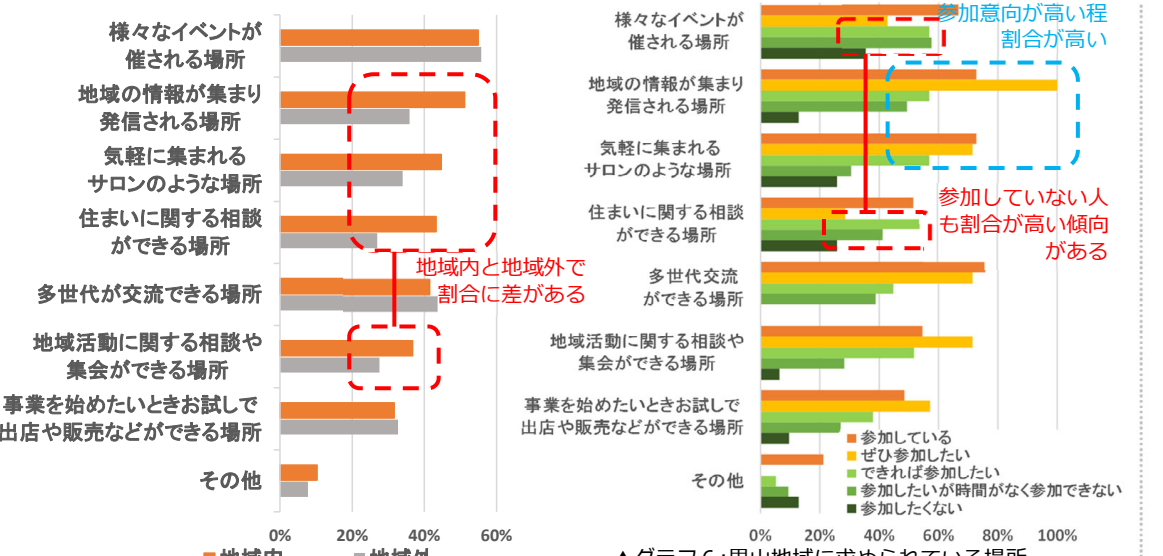
○男山地域内外で比較すると「地域の情報が集まり発信される場所」や「住まいに関する相談ができる場所」等は地域外と比べて地域内の方の求める割合が高い傾向があります。

○活動に参加していない人でも「様々なイベントが催される場所」「住まいに関する相談ができる場所」を望む傾向にあります。



▲グラフ3:取組に対する認知と男山地域のまちづくりにとって大事だと思う取組の割合比較

▲グラフ4:男山地域のまちづくりにとって大事だと思う取組(年齢別)



▲グラフ5:男山地域に求められている場所(地域内外別)

▲グラフ6:男山地域に求められている場所(まちづくり活動への参加状況別)

(3) 地域活動について

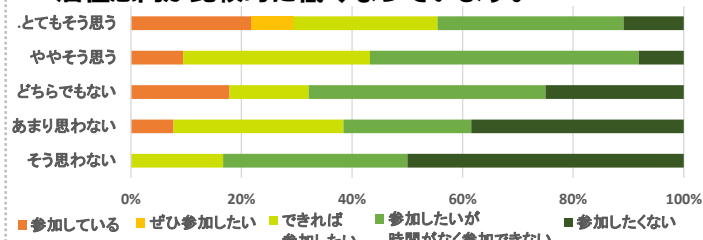
1. 興味のある活動テーマについて

○『健康づくり』や『手作り市・マルシェ』『食育・食を通じた交流』『子育て支援』が高くなっています。

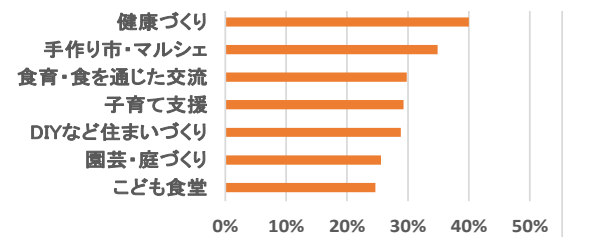
2. 継続居住意向

○活動への参加に積極的である程、継続居住意向が高くなっています。

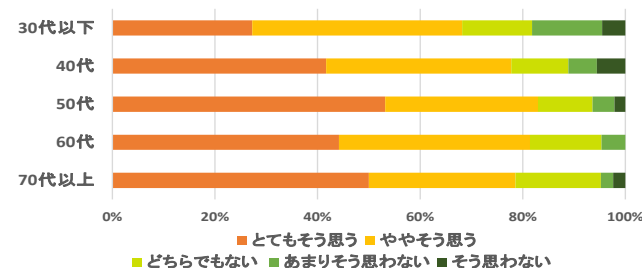
○男山地域内の30代以下、40代の若年世帯の継続居住意向が比較的に低くなっています。



▲グラフ8:継続居住意向(まちづくり活動への参加状況別)



▲グラフ7:関心のある活動テーマ ※上位7位抜粋



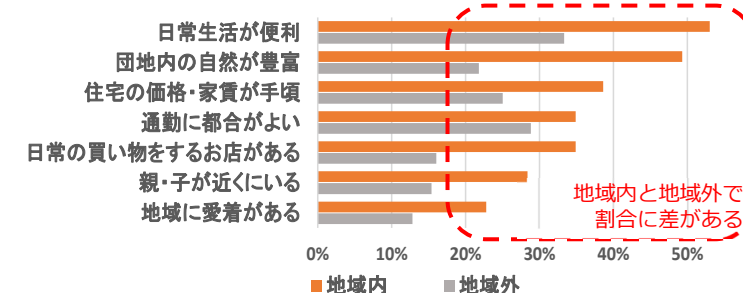
▲グラフ9:継続居住意向(年齢別)

(4) 今後の地域のまちづくりについて

1. 魅力と感じているところ

○日常生活の便利さや、団地内の自然の豊かさを半数の地域内居住者が魅力と答えており、住環境が一定評価されていることがわかります。

○男山地域内外で、魅力と感ずる割合に差があることがわかります。



▲グラフ10:男山地域の魅力と感じているところ(地域内外別) ※地域内回答上位7位抜粋

2. 男山地域のまちづくりを進めていく上で大切だと思う取組やまちづくりのアイデア(自由記述)

○外国人が住みやすい環境づくりに関するご意見

・コミュニケーション、相互理解の機会づくりや、表記やサイン、マナーの周知、コミュニティの形成について意見が見られました。

○大学との関わりについて

・大学生等の若者がまちづくり活動に参加することを評価する意見が見られました。

○だんだんテラスに関するご意見

・運営体制に対する意見や取組・活動の継続化を望む意見が見られました。

※上記は一例であり、その他にも多種多様な多くのご意見を頂きました。

※(2)以降のグラフは特記なき限り、居住地为男山地域内の回答に絞り、集計をおこなっています。

6.調査を踏まえ見えてきた連携協定による取組の評価

：ポジティブな評価（成果）

：ネガティブな評価（積残し・問題点）

調査項目	取組全般に係る評価	個別の取組に関する評価				
		子育てしやすい環境づくり	高齢者が住みやすい環境づくり	外国人が住みやすい環境づくり	魅力ある住環境づくり	住民が主体となる環境づくり
取組・活動の整理と効果検証 （住民、関係者等ヒアリング）	○関西において 団地再生の先駆的な取組 となった（他地域にとっても参考事例になるような取組が実現） ○4者連携を続けることで試行錯誤をしながら、 新たな地域課題に対応した取組 をおこなってきた ○4者連携に基づく取組が、 生活の質の向上・シビックプライドの醸成に寄与 している	○子育て支援拠点が創設され、継続的な運営により、 地域の子育て世帯の交流や相談の場 となっている ○子育て支援環境の充実が 居住地選択の積極的理由 になる事例が出てきている	○YMBTにより、住民が 地域内に住み続けることが実現 されており、住民の安心にも繋がっている ○取組による支援で生まれた活動を通じ、 見守り合う関係や地域内交流 が生まれた	○他の団地と比較して、日本人住民と 外国人住民の共生 が進んでいる ○ルール周知等、地域との融和が図られ、 トラブル等も減少 している ○外国人との 交流を望む声 も出てきている	○魅力的な住環境づくりは住民の居住地への誇りの醸成や 生活空間の改善、交流の場づくり に繋がっている	○学生にとっても 実践を通じた学び・研究の機会 となっている ○コーディネーターは住民活動の立ち上げ支援や4者 連携協議会と住民を繋ぐ役割 として機能している ○活動が、 新たなコミュニティの形成、自己実現、暮らしの充実 につながった ○だんだんテラスは 住民の居場所や心の支え となっている ○だんだんテラスの運営や男山やってみよう会議により新たな住民主体の 活動やつながりが継続的に 生まれている
	○取組がマンネリ化、固定化している傾向にあり、 新たな展開が必要 ○男山団地居住後の 市外転出を減らす 視点が必要 ○ 協定事項に含まれない課題が顕在化 （外国人住民の増加等） ○住民への取組内容や成果の 周知が必要 ○遊休ストックの活用等を通じた 地域の魅力向上に向けた取組 の検討が必要	○子育て支援拠点については取組の 効果範囲が限定的 である ○子育て支援拠点の事業継続のための 資金や人材の確保 、発掘が必要	○活動の参加者の高齢化により、 新たな担い手が必要 とされている ○ 高齢者が気軽にコミュニケーション をとることが出来る場が求められている	○外国人も地域の一員としての共存が望まれており、 地域と関わるきっかけづくり が必要 ○世代の乖離があるため 若者同士の交流 が必要 ○外国人住民の入れ替わり等があるため、 継続的な取組 が必要 ○ 所属企業等とのネットワーク を広げていく必要がある	○住戸リノベーションやセルフリノベーションの取組について、 目的と利用者実態の乖離 が見られる ○地域住民の活動を促進するような ソフト面も含めた環境づくり を進める必要がある	○継続に向け 運営体制の再構築 が必要である ○だんだんテラス運営の 仕組みやコーディネーターの役割について十分な整理 がなされていない ○学生に活動の推進力を期待する声がある一方、 学生にとっても活動参画の意義 が必要 ○新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、 活動が減少 している ○住民の高齢化等により、 新たな参加者の創出等 が必要 ○取組の 評価指標の検討 が必要
住民アンケート調査	○地域住民の取組・活動に関する 認知度は高い ○ 活動に参加 している住民は 継続居住意向が高い ○男山地域に住む 若年世代の継続居住意向が低い ○ 若年世代 は、地域活動を行う時間は取れないが、 イベントを催す場所を望む 傾向がある ○ 地域内外 で男山地域の 魅力の認識に差が存在する ○ 情報発信 が望まれている（特に活動参加者）	○取組の認知度が高い（特に 地域内若年世代 ） ○更なる取組の推進を望む意見がある ○取組を 大切だ と思う割合と 認知度 に 差がある	○取組の認知度が高い（特に 地域内高齢者 ） ○更なる取組の推進を望む意見がある	○課題認識や 取組アイデア が多数挙げられている ○取組を 大切だ と思う割合と 認知度 に 差がある	○ 地域内の40代 の回答者における 認知度及び関心度が高い ○「 魅力的な飲食店 」が乏しいことを課題視する意見が多い	○地域内の認知度が高い ○ 大学の関わりやだんだんテラスの取組 を評価する意見が見られる ○ まちづくりにとって大事だ と思う 取組 と考えている割合が低い
統計等の既存調査	○男山地域は、 八幡市の中で利便性が高く、災害リスクが低い ○新名神の供用開始等により 利便性が向上 ○外国人の増加等の影響により男山団地の入居者が増加している（人口減少に歯止め、市内企業の人材確保に貢献） ○男山団地では、市全域と比べて居住者に占める 転入者の割合が高く 、流入人口の受皿としての役割を果たしている ○男山団地では 高齢化が進行 ○男山団地では 年少人口の減少傾向 が市全域に比べて大きい ○就職や住宅取得といった ライフイベントにおいて地域外流出 する傾向にある					
社会動向 今後の	○日本全体では更なる 人口減少 が進行 ○核家族の減少に伴う単身世帯の増加や 新たなライフスタイルが台頭 （ソロ・アクティブシニア等） ○外国人人材確保について、 他国との競争が激化 する可能性がある ○ニュータウン等におけるストックの 高経年化が進行 ○ 戸建住宅地で空家が増加 ○気候変動による 災害の増加 今後、社会情勢の変化がより大きくなることが予想される中、多角的な視点で課題解決に取り組む体制が必要					

7.男山地域における今後の取組の方向性

1. 連携協定による取組の課題

2. 今後 10 年間の取組の方向性

新たな展開に向けた課題

- ▶ 1-1 これからのコミュニティを担う若者層が男山地域での暮らしを魅力に感じる情報発信が必要
- ▶ 1-2 魅力的な店舗や働く場など民間投資が発生する環境づくりが必要
- ▶ 1-3 市民の評価が高い自然環境などの資源を積極的に活用していくことが必要
- ▶ 1-4 若者世代の呼び込みと市内での住み替えが可能な環境づくりが必要
- ▶ 1-5 男山団地の高経年化や居住者層のドラスティックな変化を想定した団地のあり方についての研究が必要

既存の取組に係る課題

- 子育てしやすい環境づくり▶ 2-1 既存の取組に関する情報発信の拡充と更なる子育て環境の充実が必要
- 高齢者が住みやすい環境づくり▶ 2-2 更なる高齢者の活躍や交流の機会づくりが必要
- 外国人が住みやすい環境づくり▶ 2-3 若者どうしの多国籍コミュニティを形成するなど更なる共生に向けた取組が必要
- 魅力ある住環境づくり▶ 2-4 住まいの魅力づくりに関する戦略的な取組が必要
- ▶ 2-5 戸建エリアも含めた幅広い「住まいに関する相談」ができる場が必要
- 住民が主体となる環境づくり▶ 2-6 多様な効果のある地域活動を更に立ち上げるとともに、継続させる取組が必要
- ▶ 2-7 だんだんテラスの持続可能な運営体制構築が必要
- ▶ 2-8 学生などの外部人材がより意欲的に地域に関わることができる仕組みが必要

- 1 | 住みたい、住みつづけたい人を増やすための「地域価値向上」
○魅力の発信などの男山に住みたいと感じる地域ブランディングと、暮らしを彩る魅力的な場所や機能の拡充といった本質的な居住快適性向上の両輪により、住みたい・住みつづけたいと思えるまちを目指します。
○暮らしを彩る魅力的な場所や機能の確保にあたっては、緑道などの空間資源や地域の遊休ストックを効果的に活用することで、民間投資が誘発する環境づくりを進めます。
○地域の魅力向上の取組に加え、多様な住宅供給の誘導を進めるとともに、空家政策などとも連携し、住宅の流通促進を図ります。
- 2 | 多様性と包摂性の高いコミュニティを育む「多文化共生」
○地域の慣習やルールを外国人住民に伝えるとともに、日本人が多様な文化を知ろうとするなど相互の理解醸成を図ります。
○案内の方法やルールの表示を工夫するなど、外国人住民が生活しやすいまちづくりを目指します。
○地域の若者どうしの交流など外国人も交えた新しいコミュニティ形成の取組などを推進します。
○多文化共生を魅力として発信し、地域の価値に変えていくための取組を推進します。
- 3 | 自己実現や新たなつながりを生み出す「活動支援」
○活動づくりの機会へのより広い参加を促進することで更なる活動の立ち上げを図ります。
○地域課題の解決などテーマを設定したまちづくり活動を立ち上げる取組についても推進します。
- 4 | 持続可能な地域づくりに向けた「仕組・空間の検討」
○過去 10 年の「だんだんテラス」等の取組を踏まえ、地域内外のコーディネートや地域のマネジメントについて、人材・資金・空間等の必要なリソース確保も含め、持続可能な仕組みづくりを行います。
○コーディネーターが抽出した住民の課題認識を踏まえ、連携 4 者による取組の実行体制等を定期的に見直すなど柔軟な事業推進体制の構築を図ります。
○廃校跡地等の遊休ストックの活用も含め、市の持続可能なまちづくりに向けた土地活用の検討などを行います。